

JMCoE-Q

NEWSLETTER

Vol.1 and Vol.2, 2017.3

Published by Kyushu University EU Centre

ジャンモネCoE九州 ニュースレター

発行：九州大学 EU センター

JMCoE-Qキックオフセミナー『BREXITを読み解く』

2016年10月30日（日）九州大学西新プラザにおいて、九州大学EUセンターがEUの中心的教育助成プログラムであるエラスムス・プラスのもと、「Jean Monnet Centre of Excellence（ジャン・モネ・センター・オブ・エクセレンス）」事業に採択されたことを記念して、ジャンモネCoE九州 キックオフセミナー『BREXITを読み解く』がおこなわれました。

九州大学EUセンター主催、九州EU研究会、福岡EU協会、佐賀県EU協会、アンスティチュ・フランセ九州の後援で行われました。一般市民はもちろん、学生や研究者、また国際交流団体やEU関連団体などから約70名が参加しました。

はじめに開会挨拶として、岩田健治（九州大学EUセンター長、九州大学経済学研究院）教授から、ジャンモネCoE九州のプロジェクトについて、その申請の経緯や主旨、今後3年間の活動内容などについて説明がありました。（記事詳細は3ページ）

Jean Monnet Centre of Excellence-Kyushu (JMCoE-Q) Kick-off Seminar

The Kyushu University EU Centre, Jean Monnet Centre of Excellence-Kyushu (JMCoE-Q) Kick-Off Seminar “Deciphering Brexit Impact” was held on Sunday, 30 Oct. 2016, 13:30-16:15, at Kyushu University Nishijin Plaza, to recognize that Kyushu University has been accepted for the EU fund project as a “Jean Monnet Centre of Excellence” under Erasmus+, which is the European Union programme for education, training, youth and sport.

The seminar was organized by the Kyushu University EU Centre, supported by the Fukuoka EU Association, Saga EU Association, The Kyushu Society for EU Studies, and Institut Français Japon - Kyushu. Approximately 70 people, including university students and researchers, those from EU-related organizations and other international exchange organizations, as well as those from the general public, all participated in the festivities.

In his opening remarks, Prof. Kenji Iwata, Director of Kyushu University EU Centre, Faculty of Economics, Kyushu University, spoke about the Jean Monnet Centre of Excellence-Kyushu (JMCoE-Q) project, the background of its application, the main gist of the program, and the contents of its activities for the coming three years. (continue to page 3 for more details)



記念講演をおこなう遠藤氏
Keynote lecture by Prof. Endo



討論者の岩田氏
Comments by Prof. Iwata



質疑応答の様子
Question and answer session



懇談会で意見交換をおこなう参加者
Gathering for exchanging opinions

目次 Index

JMCoE-Qキックオフセミナー『BREXITを読み解く』 Kick-off Seminar	1
アジア太平洋地域EUセンター大学院生WS・研究者ラウンドテーブル The Annual Gathering of EU Centres in the Asia-Pacific Area	2
キックオフセミナー関連記事 More Details for the Kick-off Seminar	3
EUインフォメーションイベント EU Information Event	4
EUのクリスマス Christmas in the EU	5
ジャンモネセミナーシリーズ『英国のEU離脱とヨーロッパの将来』 Jean Monnet Seminar Series “Brexit and the Future of Europe”	6
福岡で楽しむEU Enjoy the EU in Fukuoka	7
番外レポート Extra Report	8

JMCoE-Q創刊特別合併号

This is the first special combined issue of vol.1 and vol.2 of JMCoE-Q Newsletter.



The annual gathering of the EU Centres in the Asia-Pacific area took place in Taiwan
アジア太平洋地域EUセンター 大学院生ワークショップ (2016年12月20-21日)
研究者ラウンドテーブル(2016年12月18日-20日)

Annual Roundtable of EU Centres in Asia-Pacific

The annual gathering of the EU Centres in the Asia-Pacific area took place in Taiwan hosted by the National Taiwan University (NTU) on 18-20 December 2016. We had already got together in February 2016 in Macau, so this gathering in Taiwan was the second one in 2016. It was because the NTU had planned to host an international workshop of the EU Centre in Taiwan (EUTW), and they kindly invited all the EU Centres including the NTU Jean Monnet network partners to participate in the planned international workshop. Consequently, there were participants from the UK, France, Czech Republic, Poland, USA, and China, in addition to the usual participants from the Asia-Pacific including Australia and New Zealand.

The theme of the workshop was "EU New Trade Strategy and Inter-regionalism." The three-day programme was started with a welcome dinner on the 18th at a fabulous canteen of the NTU, followed by a full-day presentation in three sessions on the 19th, and finally on the 20th, a big roundtable with all the participants' exchanges on the current issues and future prospects of trade schemes from a point of view of multi-regionalism. Many of the participants were meeting for the first time, but by the end of the three days, a friendly atmosphere of solidarity, built through the EU studies, was certainly shared among everyone. (By Machiko Hachiya)

アジア太平洋地域EUセンター研究者ラウンドテーブル

本大会は、2016年における第2回目のラウンドテーブルとなりましたが、これは例外的に次年度のラウンドテーブルを前倒しにして実施されたものです。その理由は、次年度開催を予定されていた台湾EUセンター (EUTW) が、ちょうどこの時期に国際ワークショップ開催を予定していたために、せっかくの機会だからというわけで、ラウンドテーブル参加校も、国際ワークショップへ一緒に参加することを提案していただいていたからです。したがって、通常のアジア太平洋地区のEUセンターを運営する大学に加えて、イギリス、フランス、チェコ、ポーランド、アメリカ合衆国、中国からの参加者とともに、総勢40名ほどの大掛かりなラウンドテーブルとなりました。今回の主題は、18日の国立台湾大学 (NTU) のおしゃれな食堂での歓迎会、19日のびっしりつまった3セッションでの報告、20日午前中の全員参加のラウンドテーブルと実に充実したプログラムが組まれていました。

今回の主題の "EU New Trade Strategy and



全参加者 all participants

Inter-regionalism"のもとで、地域間協力による貿易戦略が直面している課題や今後の見通しなどについての、地域性が織り込まれた報告がだされました。

多くの参加者が初対面でしたが、開催校のNTUの気配りにあふれた運営のおかげもあって、EU研究者の連帯感に包まれた3日間となりました。(文責：八谷まち子)

アジア太平洋地域EUセンター大学院生ワークショップ

12月20日の午後から、大学院生のためのワークショップが開催されました。こちらのWSは、例年通りのアジア・太平洋地域のEUセンターからの参加者に限られていました。オーストラリアとニュージーランドを含むAP地域から20名の参加者を得て、3つのセッションで日頃の研究成果の報告がなされました。九州大学からは法学府の邓萌乔さん(修士課程)と吉本文さん(博士課程)が参加しました。各国のEUセンターから同行していた先生方は、3セッションのモデレーターや討論者として参加しました。最後に全体評価と優秀者の発表が行われましたが、今回は例年にも増して優秀な報告が多かったというのが全員の一致した評価でした。本WSは、大学院生の国際会議での報告の練習の場にして、という当初の目的を超えて、もはや学生たちの研究成果を競う場となったようです。(文責：八谷まち子)



九州大学EUセンターからの参加者 Participants from KU EU Centre
八谷まち子 (左から4人目) Ms Machiko Hachiya, fourth from the left
吉本文 (右から4人目) Ms Fumi Yoshimoto, fourth from the right
邓萌乔 (右から2人目) Ms Deng Mengqiao, second from the right

Asia-Pacific EU Studies Graduate Student Workshop

Following the EUTW JM international workshop, another annual workshop of graduate students of the EU Centres in the Asia-Pacific area took place in the afternoon of the

20th and during a full day on the 21st of December at the NTU. The 20 participants, including Deng Mengqiao and Fumi Yoshimoto, both from the Graduate School of Law, presented their papers in four sessions, and professors participated as moderators as well as discussants for each session. They all agreed that the papers presented this year had demonstrated sound research and were of very high all-around quality. The workshop seems to have reached a level that went beyond its initial purpose as an exercise opportunity for the students to one which provided a challenging stage instead. (By Machiko Hachiya)



(1面関連記事)

JMCoE-Qキックオフセミナー『BREXITを読み解く』

記念講演としてEU研究の第一人者である遠藤 乾氏（北海道大学法学部・公共政策大学院教授）をお迎えしました。遠藤氏は、10月20日発行したばかりの自著『欧州複合危機のゆくえーイギリス離脱後のEUと世界ー』（中公新書）に沿って講演しました。2016年6月23日の国民投票で、離脱派が過半数を占めたイギリスのEU離脱問題は、世界的な経済の不安定化をよびおこし、イギリス国内の政治状況も混乱しています。72.2%という高い投票率の今回の選挙で、誰がどのように投票したのかについて、年齢や教育水準、地域別、支持政党別などの分析に基づき説明しました。民衆の力「デモクラシー」ならぬデマの力「デマクラシー」がはびこり、EU離脱によりあたかもバラ色の世界が待っているかのような幻想が離脱派の主張となったと話し、このことは、イギリスにも、EUにもダメージであり、ひいては自由民主主義勢力が世界中で持つ重みに対するダメージでもあったと解説しました。

つづく討論では、遠藤氏の記念講演を受けて、岩田 健治氏（九州大学EUセンター長、九州大学経済学研究院教授）が、BREXITについて経済的側面から解説し、イギリスの輸出先は多くはEU向けで、EUを脱退することはイギリスのみならずイギリスと交易をするEU圏内の国々にも関税が生じる影響があることなど説明しました。

最後に、遠藤教授と岩田教授がパネラーをつとめ、八谷まち子氏（九州大学EUセンターアドバイザー）がモデレーターとなり、会場から回収した質問票に基づき質疑応答がおこなわれました。集められた質問の中から代表していくつかの質問をとりあげ、なぜオプトアウトは効果をもたなかったのか、EU離脱がアジアとロシアへもたらす影響、今後のイギリスと中国の関係性、などについて、遠藤、岩田両教授はひとつひとつ丁寧に解説し答えました。

閉会挨拶として九州大学理事・副学長の青木玲子氏は、九州大学がジャン・モネ・センター・オブ・エクセレンスという、100を超える世界の主要な大学に設置されているグローバルネットワークのひとつとして、EU本部から選ばれたことは大変喜ばしいことであり、皆様に引き続きの支援と協力をお願いしたいと締めくくりました。

閉会后、参加者間の情報交換を目的とした懇談会が行われました。会議の熱気そのままに、教授陣に質問を投げかける学生や一般参加者の様子が大変印象的でした。キックオフセミナーは好評裡に幕を閉じました。

参加者アンケートの結果からは、どのような知識レベルの参加者にも大変わかりやすい説明であった、また解決すべき課題が多くあることを教えて頂き大変示唆に富んだ内容であった、という感想が聞かれました。非常に有意義な時間を過ごすことができた、今まさに知りたかったことなのでとても勉強になった、という声が多く聞かれ、時事に沿うテーマ設定に大変好評を得た非常に満足度の高いセミナーとなったことがうかがえました。

(Details for the top page)

JMCoE-Q Kick-off Seminar

Prof. Ken Endo, Faculty of Public Policy, Hokkaido University, who is an expert and leading scholar on EU Studies, was welcomed as the keynote speaker. Prof. Endo gave a lecture that went along with his own book, which had just been published on 20 Oct. 2016, titled 『欧州複合危機のゆくえーイギリス離脱後のEUと世界ー』（Chuko Shinsho). Due to the referendum in the UK held on 23 June 2016, the so-called Brexit was achieved when the “leave” camp gained a majority of the votes, evoking an economic destabilization worldwide, and the political situation in the UK became somewhat clouded. Prof. Endo explained who voted and how these various age and education levels voted in the referendum which saw a high voter turnout of 72.2%. He also provided a geographical analysis and party affiliation analysis of the vote. Additionally, he suggested that it was not the collective power of the general public, or “Democracy”, but rather “Dema-crazy” (meaning demagogic democracy) that had been rampant among society, which prevailed. Furthermore, the pro-Brexit faction had insisted on the existence of a visionary world as if there were a rosy future ahead. This, however, was likely to damage the U.K. and the EU, and eventually, weigh on the strength of liberal democracy in the world. (continue to the next page)



九州大学EUセンター
ジャンモネCoE九州キックオフセミナー
『BREXITを読み解く』

6月23日の国民投票で、離脱派が過半数を占めたイギリスのEU離脱問題は、世界的な経済の不安定化をよびおこし、イギリス国内の政治状況も混乱しています。72.2%という高い投票率の今回の選挙で、誰がどのように投票したのかについて、年齢や教育水準、地域別、支持政党別などの分析に基づき説明しました。民衆の力「デモクラシー」ならぬデマの力「デマクラシー」がはびこり、EU離脱によりあたかもバラ色の世界が待っているかのような幻想が離脱派の主張となったと話し、このことは、イギリスにも、EUにもダメージであり、ひいては自由民主主義勢力が世界中で持つ重みに対するダメージでもあったと解説しました。

2016.10.30 [日] 13:30 - 16:15 (13:00開場)
会場：九州大学西新プラザ (福岡市早良区西新2丁目16-23)
定員：80名 参加費：無料 (要予約) 言語：日本語 (通訳なし)

記念講演
『欧州複合危機のゆくえーイギリス離脱後のEUと世界ー』

【講師】 遠藤 乾
(北海道大学法学部・公共政策大学院教授)
【司会】 岩田 健治
(九州大学EUセンター長、九州大学経済学研究院教授)
【司会】 八谷 まち子
(九州大学EUセンターアドバイザー)

【お申込み方法】
氏名に「セミナー参加希望」と明記し、お名前・メールアドレスを
お電話・メール・FAXでお申し込みください。
E-mail: eucentre@jmu.kyushu-u.ac.jp FAX: 092-642-4435

【会場】 九州大学西新プラザ 【交通】 九州大駅西口、福岡市早良区西新2丁目16-23 徒歩10分

九州大学EUセンター Kyushu University EU Centre
福岡市早良区西新2丁目16-23
TEL: 092-642-4433 FAX: 092-642-4435 E-mail: eucentre@jmu.kyushu-u.ac.jp
http://eu.kyushu-u.ac.jp

グローバルブランド ジャンモネセンター

EUの教育助成プログラム「エラスムス・プラス(Erasmus+)」の一つであるJean Monnet Centre of Excellence(ジャン・モネ CoE)は、EUをフィールドにそれぞれの分野で活躍する専門家を集結し、ヨーロッパ研究を発展させるとともに、国境を越え学術的な交流の促進とネットワークの構築を目指して人々にその知識を広く周知させることを目的としています。ジャンモネCoEは、EUについての知識を、EUに関連した学習に励む学生や政策立案者や公務員のみならず、社会一般に広める役割を担っています。日本国内では、神戸大学が2015年度に採択され、世界では100有余のジャンモネCoEセンターが設立されており、グローバルブランドとなっています。

Global Brand, Jean Monnet Centre

A Jean Monnet Centre of Excellence is one of the EU's educational support programs "Erasmus +", and a focal point of competence and knowledge on European Union subjects. A Jean Monnet Centre of Excellence gathers the expertise and competences of high-level experts and aims at developing synergies between the various disciplines and resources in European Studies, as well as at creating joint transnational activities and structural links with academic institutions in other countries. It also ensures openness to a civil society. Jean Monnet Centres of Excellence have a major role in reaching out to students from faculties not normally dealing with European Union issues as well as to policy makers, civil servants, organised civil society, and the general public at large.

In Japan, Kobe University was adopted as a JMCoE in 2015. More than a hundred Jean Monnet Centres of Excellence have been established in the world, and it is currently being developed as a global brand.



九州大学の ジャンモネCoE

九州大学のEUセンターは、これまで、欧州委員会 (European Commission) からの資金援助を得たコンソーシアムの代表校としてEUインスティテュート・イン・ジャパン九州 (EUIJ九州) を運営し、EUに関する教育・研究のさらなる向上を目指してまいりました。これらの実績が認められ、ジャン・モネ CoE (申請プロジェクト名: Jean Monnet Centre of Excellence-Kyushu (JMCoe-Q)) が採択され、2016年9月1日から2019年8月31日までの3年間にわたり、教育、研究、アウトリーチ、学術交流などの事業を行い、EU研究を再び世界に向けて発信し、九州大学のグローバルな展開を強化してまいります。

Jean Monnet Centre at Kyushu University (JMCoe-Q)

Kyushu University strengthened its expertise on EU matters during the activities as the consortium leader of the EU Institute in Japan, Kyushu (EUIJ-Kyushu), which was funded by the European Commission. The University has continued to promote EU-related education and research. In recognition of our earlier achievements as EUIJ-Kyushu, Kyushu University was selected as the second Jean Monnet Centre of Excellence in Japan (the full project name is "Jean Monnet Centre of Excellence-Kyushu"). It will develop a strategic three-year plan from September 2016 to August 2019, including a wide range of activities on education, research, outreach, and academic exchange. It will provide guidance and a vision for the best experts for creating synergies on specific EU subjects, and it will contribute to the strengthening of global development.

(continued from page 3) In the discussion, in reaction to the keynote speech by Prof. Endo, Prof. Iwata, gave some detailed commentary on Brexit from various economic aspects. He explained that the U.K.'s export destination is mainly the EU, and that leaving the EU would impact not only the U.K. but also other euro-area countries trading with the U.K. in terms of tariffs.

As a final program, a question and answer session based on questionnaires gathered from the audience was conducted, in which Prof. Endo and Prof. Iwata were panelists, and Ms Machiko Hachiya, Advisor of Kyushu University EU Centre, served as a moderator. They selected some questions to answer, and Prof. Endo and Prof. Iwata answered each question thoughtfully, covering topics such as "why the opt-out didn't have an effect", "the impact of Brexit on Asia and Russia", and "China-United Kingdom relations".

Finally, Ms Reiko Aoki, Executive Vice President, Kyushu University, gave a closing address. Ms Aoki ended her speech by

stating that it was a joyful occasion that Kyushu University had been selected as a Jean Monnet Centre of Excellence, which is one of the global networks established at a hundred leading universities around the world. Ms Aoki asked all the participants for their continued support and cooperation.

After the conference, a gathering designed for exchanging opinions and ideas among participants was held. It was impressive to see the students and general participants asking questions directly to the lecturers with such enthusiasm. The Kick-off Seminar certainly ended successfully.

According to the results of the participants' questionnaire, the lecture provided a clear explanation for all participants regardless of their knowledge level, and the contents were thought-provoking. Many participants answered that the seminar had been meaningful and informative, and implied that the seminar was highly satisfactory due to the topic being such a relevant issue at the moment.

EUインフォメーションイベント



熱心に聴く参加者 | Participants listened intently

2016年12月15日、九州大学伊都キャンパス 嚶鳴珈琲館 (センター 2 号館 1 階) において、九州大学EUセンターと九州大学SALC (Self-Access Learning Centre : サルク) の協力のもと、九大在学生向けEUインフォメーションイベントを開催しました。約20名が集まりました。EUセンターが教育活動の軸として九大生の皆さんに提供しているEU研究ディプロマプログラム (EU-DPs) や、EUへの理解や知識を深め、今後JMCoe-Qプロジェクトの活動内容として計画されている、セミナーやイベント、研修旅行やサマーコースなどについて紹介しました。

また、EU-DPs修了者であり、現在SALCのスタッフで語学指導などを行う、カザフスタン出身のライリヤ・ヌルガリエヴァさんは、EU-DPsを通じてEUに関連することを学んだ経験を語り、知識修得だけにとどまらず、「これからの夢実現のドアをあけるためのカギになる」と話しました。参加学生にひとりでも多くEU-DPsを通じて積極的に学んでもらいたいとあたたかい声援をおくりました。

SALCセンター長の大橋浩教授 (基幹教育院) の挨拶につづいて、EUセンター長の岩田健治教授 (経済学研究院) は「BREXIT」を講義と題し、イギリス離脱問題について、はじめての学生向けにEU機関の基礎的な説明なども踏まえ、15分講義を行ないました。

また、EU-DPs修了者であり、現在SALCのスタッフで語学指導などを行う、カザフスタン出身のライリヤ・ヌルガリエヴァさんは、EU-DPsを通じてEUに関連することを学んだ経験を語り、知識修得だけにとどまらず、「これからの夢実現のドアをあけるためのカギになる」と話しました。参加学生にひとりでも多くEU-DPsを通じて積極的に学んでもらいたいとあたたかい声援をおくりました。

最後に、日本人学生と留学生の交流の促進および、国際化についての提言などをおこなう、留学生と日本人学生、教員で構成される委員会「九州大学国際化学生委員会 (SCIKyu : サイキューウ)」代表の宮崎聖さん (九州大学工学部 機械航空工学科4年) が、EU研究サマーコースの参加者として体験談を語りました。経済・政治・社会などEUに関する知識をひととおり学べる2泊3日のカリキュラムの中で、最後の「模擬欧州委員会」は、集大成として大変勉強になったと熱く語りました。

(次頁につづく→)



ライリヤ・ヌルガリエヴァさん | Ms Lyailya Nurgaliyeva



(前頁のつづき) 宮崎さんはサイキウの目的や活動内容についても説明し、国際関係、留学、語学力などに関心のある学生にとって、学部・学府を越えて交流できる大変有意義な機会となりました。

また、クリスマス時期のイタリアの伝統的なお菓子「パネトーネ」がコーヒーとともにふるまれ、和やかで活発な雰囲気の中、イベントはおこなわれました。

EU Information Event

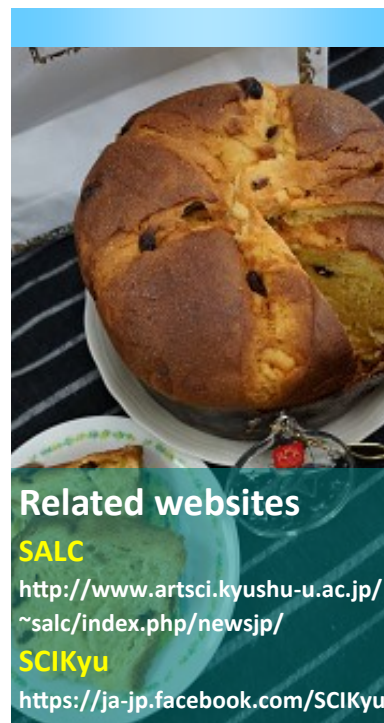
On 15 December 2016, an EU Information Event for Kyushu University students was held at Oumei Kohi Kan, Kyushu University, under the cooperation of the Kyushu University EU Centre and Kyushu University Self-Access Learning Centre (SALC). Approximately 20 students gathered. The EU Study Diploma Programmes (EU-DPs), which are provided as an axis of the EU Centre's educational activities for Kyushu University students, along with various events being planned as JMCoe-Q activities for the coming years, such as seminars, EU Studies tour, and EU Studies Summer Course, were introduced.

Prof. Hiroshi Ohashi, Director of SALC, Faculty of Arts and Science, stated that he was looking forward to further fosterage of collaborative relationships. Prof. Kenji Iwata, Director of the Kyushu University EU Centre, Faculty of Economics, gave a lecture for around 15 minutes about the UK's Separation from the EU, titled "Brexit Mini Lecture", which covered a basic explanation of EU institutions for students unfamiliar with the EU.

Ms Lyailya Nurgaliyeva from the Republic of Kazakhstan, who is currently working at SALC as a language coaching staff and had completed the EU-DPs course, spoke about her own experiences of learning about the EU through EU-DPs. She explained that the EU-DPs are not only useful for gaining knowledge, but also as a key to opening the door to realizing

Finally, Mr Hijiri Miyazaki, a fourth-year student of the School of Engineering, Kyushu University, talked about his personal experience at the EU Studies Residential Summer Course. He is working as a director of the Student Committee for the Internationalization of Kyushu University (SCIkyu), which is an official committee comprised of Japanese students, international students, and some teaching and non-teaching staff members, whose aim is to help foster the internationalization of Kyushu University. He explained that he learned a lot through the curriculum of the summer course in which participants could learn general and basic knowledge about the EU, covering topics such as economics, law, politics, society, and culture. He emphasized that the final program, a "Simulation of the European Council", was meaningful as a compilation of the programme. Mr Miyazaki also explained the aims and activities of SCIkyu.

Traditional Italian sweets served in the Christmas season, called *panettone*, were served with coffee, and the event ended in a relaxed atmosphere.



Christmas in the EU

EU諸国出身の留学生在が母国のクリスマスを紹介するイベント「EUのクリスマス」



発表者：バウムゲートル・フリドリッヒさん (ドイツ)
 Mr Friedrich Baumgaertel from Germany

EU諸国出身の留学生在が母国のクリスマスを紹介するイベント「EUのクリスマス」が福岡EU協会と九州大学EUセンター（ジャンモネCoE九州）の共催で、2016年12月18日（日）アクロス福岡こくさいひろばで開催されました。約50名の一般参加者が留学生の発表に耳を傾けました。

ベルギー出身のケリー・クナーベンさん（九州大学法学府CSPAプログラム）は、同国ではヨーロッパのほかの国々と同様に、12月6日聖ニコラウスの日からクリスマスのお祝いが始まり、ベルギーの子どもたちはその日に、

聖ニコラウスからプレゼントが貰えると紹介しました。ドイツ発祥といわれるクリスマスマーケットもベルギー各地で開催されているということです。

ドイツ出身のバウムゲートル・フリドリッヒさん（九州大学法学府LL.M.プログラム）は、12月1日から24日までのクリスマスの準備期間「アドヴェント」を紹介しました。ドイツでもっとも重要な歳時であるアドヴェントの時期になると、ドイツではどこへ行っても、町の中心にクリスマスマーケットが並んでいてグリューワインなどが売られているそうです。子どもたちにとってもクリスマスは特別で、「アドヴェント・カレンダー」という数字が窓になったカレンダーをひとつずつあけると、中にチョコレートが入っていたり、クリスマスまで指折り数える楽しみがあると語りました。

発表後には、クリスマスらしいお菓子和紅茶が提供され、参加者と発表者の交流をおこないました。フリドリッヒさんのお母様がドイツからプレゼントしてくださったという2種類のクッキーもふるまわれました。とても和やかな雰囲気の中で終了しました。

EUのクリスマス

九州大学に在籍するEU出身の留学生在が母国のクリスマスの様子をお話しします。今回は、ベルギーとドイツのクリスマスについて紹介します。本場のクリスマス気分を感じられるひとときです。

International students enrolled at Kyushu University will introduce Christmas from their home countries. Enjoy the moment as you are in Belgium and Germany!

2016年12月18日(日) 14:00~
Sun, 18 Dec, 2016 14:00~

場 所: 「こくさいひろば」
 (福岡市中央区天神 1-1-1 FPOビル3階3F)
 Venue: "Kokusai Hiroba"
 (3F ACRS Fukuoka, 1-1-1 Tenjin Chuo-Ku Fukuoka)

申込方法: 裏面の必要事項をご記入の上、TEL、FAX、Eメールのいずれかでお申込みください!!
 Registrations: Please fill the required information on the back, and apply through either TEL, FAX or Email.

参加費: 無料 (定員60名)
 Admission: Free (Participants: 60)

スピーカー / Speakers

<ベルギー / Belgium>
 ケリー・クナーベンさん
 (九州大学法学府CSPAプログラム)
 Ms. Kelly Knappen
 (CSPA Programme, Graduate School of Law, Kyushu University)

<ドイツ / Germany>
 バウムゲートル・フリドリッヒさん
 (九州大学法学府LL.M.プログラム)
 Mr. Baumgaertel Friedrich
 (LL.M. Programme, Graduate School of Law, Kyushu University)

主催: 福岡EU協会
 協賛: 九州大学法学府・ジャンモネCoE九州
 (公財) 福岡国際交流センター



Jean Monnet Seminar Series, "Brexit and the Future of Europe: Focusing on the income gap"

A special lecture by Emeritus Professor of Tohoku University Dr. Soko Tanaka on "Brexit and the Future of Europe: Focusing on the Income Gap" was held on Friday, 27 January 2017, 10:30-12:00, at Hakozaki Campus, Kyushu University. The lecture was organized by the Kyushu University EU Centre as part of the Jean Monnet Centre of Excellence-Kyushu (JMcOE-Q) Seminar Series. Approximately 200 people, including university students and researchers, as well as those from the public, participated.

Following the introduction by Prof. Kenji Iwata, Director of Kyushu University EU Centre, Faculty of Economics, Kyushu University, Prof. Soko Tanaka, a distinguished scholar who has long been leading EU Studies in Japan, delivered his impassioned speech which included a variety of significant data.

In his speech, he discussed challenges facing the EU and presented a perspective for a future Europe, following the situation surrounding Brexit.

He argued that, judging from an economic point of view, leaving the EU (especially the WTO status) is something against reason for the UK economy, because the UK has prospered as a part of the EU-wide supply chain. However, he pointed out that neoliberal policies, including globalization, pursued by advanced economies, and their consequences such as the income gap and immigration issues lay behind the Brexit vote. He also argued that after the Lehman crisis in 2008, the world economy entered a "Populism Stage" characterized by economic domination of great powers. (continue to the next page) ↗



ドイツからのクリスマスツッキー Christmas cookies from Germany

Christmas in the EU

"Christmas in the EU", co-organized by the Fukuoka EU Association and EU Centre, was held on Sunday, 18 December 2016 at Koku-saihiroba, ACROS Fukuoka. At the event, international students from EU member countries introduced how the Christmas season is celebrated in their home countries. Approximately 50 participants gathered. The participants listened with great interest to the presentations about festivities and customs peculiar to each country.

Ms Kelly Knapen from Belgium (CSPA Programme, Graduate School of Law, Kyushu University) explained that the Christmas season in Belgium starts from 6 December, Saint Nicholas Day, which is the same as in many other European countries, and children in Belgium can get presents from Saint Nicholas on that day. There is a Christmas market taking place in various regions in Belgium, which is said to have originated in Germany.

Mr Friedrich Baumgaertel from Germany (LL.M. Programme, Graduate School of Law, Kyushu University) introduced the special term to prepare for the Christmas season, between 1 to 24 December, called "Advent". During Advent, you can enjoy Christmas markets lined up side by side in peaceful harmony in the centre of the city, and visitors can enjoy spiced mulled wine ("Glühwein" in German). Christmas season is also a special season, of course, for children. "Advent calendars" which have many windows and doors, each with a number between 1 and 24, are very popular. Behind each one, often a piece of chocolate can be found. Children excitedly await the approach of Christmas by opening the small doors or windows day by day leading up to Christmas Day.

After the presentations, everyone enjoyed time for conversation with delicious tea and cake in a festive atmosphere. All the participants enjoyed special Christmas cookies handmade by Friedrich's mother and sent from Germany.



発表者：ケリー・カーペンさん (ベルギー)
Ms Kelly Knapen from Belgium

ジャンモネセミナーシリーズ

田中素香・東北大学名誉教授『英国のEU離脱(BREXIT)とヨーロッパの将来—格差問題を中心に—』



田中 素香氏 | Dr. Soko TANAKA

九州大学経済学研究院教授が、長い間日本においてEU研究を牽引されてこられた第一人者である田中素香氏（東北大学・名誉教授）について紹介しました。その後、田中氏は、表題のテーマについて、豊富なデータをもとに熱弁を振るわれました。

その中で、氏は、英国の離脱問題を切り口として、EUが直面している課題や今後の展望についてお話をされました。同氏は、経済的観点から見た場合、EUからの離脱（特にWTOステータス）は、EU規模のサプライチェーンに組み込まれ繁栄してきた英国にとって無理筋であるものの、先進資本主義国が70年代以来追求してきたグローバル化などの新自由主義的施策と、そうした施策がもたらした所得格差や移民問題が背景にあると指摘しました。

そのうえで、2008年のリーマン危機以降、世界経済は強国による世界経済支配を特徴とする「ポピュリズム時代」に入っており、域内の国別格差を是正する制度の構築やEU英FTAによるBrexitへの対応など、こうした「新しい現実」へのEUの適応能力が問われており、当面フランス大統領選挙が分岐点となると論じました。

セミナーが成功裏に終了後も、熱心な学生や研究者が列を成して田中素香教授に直接質問を投げかけていた点が大変印象的でした。（文責：岩田健治）



「EUのクリスマス」番外レポート

「EUのクリスマス」(5、6ページ参照)に参加者として訪れていたシンガポール大学公共政策大学院の遠山一記氏からの申し出により、九州大学法・経済教員陣の学生交流に対する柔軟な理解と協力のもと、2017年2月、日本研修旅行において、九州大学学生とシンガポール大学公共政策大学院の学生交流が実現しました。EUセンターが提供するEU-DPsの登録学生を含むCSPAコース、LL.M. コースの学生ら約20名と、教員2名(蓮見二郎教授(法学研究院)、儲梅芬准教授(経済学研究院))が、福岡の産業見学として八幡製鉄所やトヨタ自動車九州工場、また福岡市長訪問などの2日間にわたるコースに同行し参加しました。福岡見学初日の夜に行われた懇親会では、国籍様々な九州大学の留学生(中国、韓国、ペルー、メキシコ、タイ、ベルギー、スリランカ、アイスランド、グアテマラ、モンゴル、アフガニスタンなど)と交流し、双方の学生にとってネットワークを広げる大変貴重な機会となりました。

Extra Report about Christmas in the EU

Thanks to an unexpected offer by Mr Ikki Toyama (Lee Kuan Yew School of Public Policy, National University of Singapore), who participated in the event "Christmas in the EU" (please refer to page 5 and 6), a student exchange between Kyushu University and National University of Singapore became a reality during the Japan Tour of National University of Singapore in February. The student exchange happened successfully with flexible understanding and support from teachers in the Faculty of Law and Economics, Kyushu University. As an industrial tour course in Fukuoka, approximately 20 students from the CSPA and LL.M. courses, including EU-DPs students and two teachers (Prof. Jiro Hasumi, Faculty of Law, Kyushu University, and Assoc. Prof. Ms Chu Meifen, Faculty of Economics, Kyushu University) took part in the two-day tour to visit Yawata Steel Works and Toyota Kyushu Factory, as well as a Fukuoka City Hall meeting with the mayor of Fukuoka. In the exchange gathering held at night on the first day of the tour, Kyushu University international students from various countries (China, Korea, Peru, Mexico, Thailand, Belgium, Sri Lanka, Guatemala, Mongolia, and Afghanistan) had an exchange of views and expanded the wave of exchange. It became a precious opportunity for networking for all students participating from both universities.



トヨタ自動車九州工場見学
Visit to Toyota Kyushu Factory



福岡市内でおこなわれた懇親会の様子
Exchange gathering in Fukuoka City



福岡市役所訪問、講義、福岡市長(写真中央)との記念撮影
Visit to Fukuoka City Hall, Gathering photo with Mayor Takashima (seated centre)

九州大学EUセンター
Kyushu University EU Centre

福岡市東区箱崎6-10-1
6-10-1, Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka,
812-8581, Japan

TEL: +81-92-642-4433
FAX: +81-92-642-4435
Email: eucentre@jimu.kyushu-u.ac.jp
Website: <http://eu.kyushu-u.ac.jp/index.html>



Co-funded by the
Erasmus+ Programme
of the European Union



発行：九州大学EUセンター 発行日：2017年3月21日

Published by Kyushu University EU Centre, The date of issue: 21 March 2017